Market Letter 情報提供資料

米AI・半導体関連株の下落は続くのか？

今後の注目点はビッグテックのクラウド事業の増収率

2026年10月26日

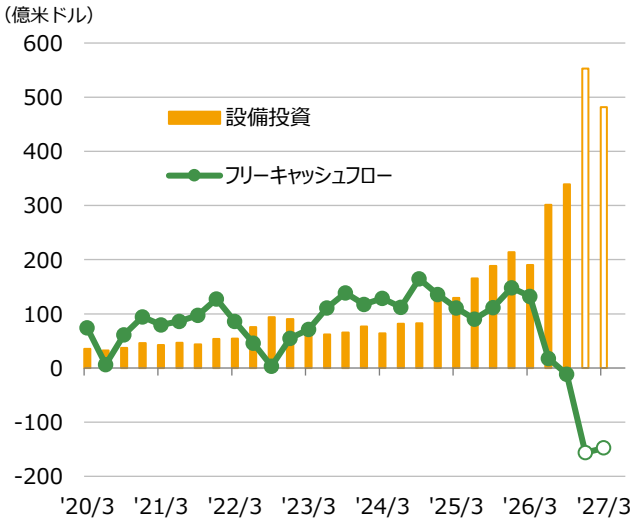
AI事業の巨額投資の持続性や採算性への警戒が再燃

米国株式市場でAI・半導体関連株の下落が続いています。特に10月22日（木）のナスダックは▲2.6%と今年2番目の下落率となり、SOXは▲6.7%と急落しました。23日（金）のナスダックも▲0.2%と小幅安となり、底打ちしたとは言い難い状況です。株価下落の引き金となったのが、前日発表のメタの26年7-9月期決算です。10-12月期の売上高見通しが事前予想を上回るなど業績内容は良好でした。一方、①7-9月期のフリーキャッシュフローが赤字に転じたこと（ただし赤字化自体は事前予想に織り込み済み）、②2026年通期の設備投資計画の下限引き上げ、③CFOがAI関連投資はコア事業に比べリターンの実現に時間を要するとの見方を示したこと、④資金調達等に利用できるClass C株新設により、将来の株式発行による希薄化が意識されたこと、等がネガティブ視されました。コアウィーブショック以降、AI事業の巨額投資の持続性や採算性への警戒が再燃するなか、メタの決算は懸念を更に強めました。

こうした市場の見方に変化をもたらす可能性のある材料として注目されるのが、28日（水）のマイクロソフトとアルファベット、29日（木）のアマゾンの7-9月期決算です。4-6月期決算では、3社のクラウド事業の増収率（前年同期比）が前四半期や事前予想を上回り、市場はAIビジネスの成長性を再確認。7月末～8月上旬のAI相場再起動につながりました。今回も同様の展開となるか、決算内容が注視されます。

（執筆：調査部　高橋卓也）

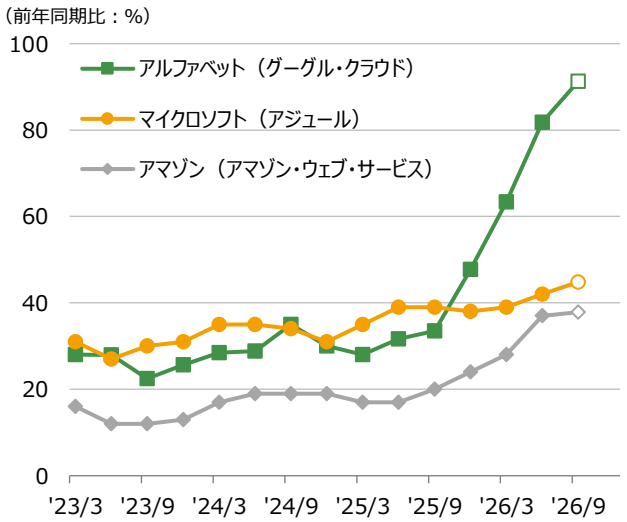
図表1　メタの設備投資とFCF（四半期）



※26年7-9月期まで実績。同10-12月期以降の予想はブルームバーグ

（出所）ブルームバーグより大和アセット作成

図表2　各社クラウド事業の増収率（四半期）



※26年4-6月期まで実績。7-9月期の予想はブルームバーグ

（出所）ブルームバーグより大和アセット作成

当資料のお取扱いにおけるご注意

■当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

■当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。

■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。